

平成25年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

平成26年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

はじめに

兵庫教育大学F D推進委員会委員長 吉水 裕也

平成 25 年度は、本学の F D 活動にとって大きな変革の年となった。それは、F D 推進活動が本学の大学経営に関する重点事項の一つに位置づけられたことが大きな理由の一つである。

今年度は、多くのことに取り組む前提として、これまで明確に位置づけられてこなかった F D という言葉を、本学のミッションやビジョンに照らして定義することにした。教員養成大学である、また多くの現職教員大学院生が研究する兵庫教育大学が取り組むべき F D 活動の向かうべき方向を定めるための基礎となる取り組みであった。本学における F D は、教職員が協働して学生参画のもとに取り組む大小さまざまなスケールの取り組みであることを定義した上で、個々の F D 活動に取り組むこととした。また、F D 活動への学生参画の促進と円滑化を図るために F D 活動交流会を委員会内に設置した。

さて、今年度前期までは、昨年度までと同様に授業公開特定期間を設定したが、後期はアクティブ・ラーニングをテーマとする研究会として、授業公開と授業研究会を行った。学内外に広報のうえ、昨年度もお世話になった愛媛大学の山田剛史准教授を講師としてお招きし、教職員、学生・院生、学外者が参加しての研究会を開催することができた。アクティブ・ラーニングという言葉自体をどのように捉えるのか、また、本学が目指す授業改善の方向が、いわゆるアクティブ・ラーニングで良いのかということを議論する機会として貴重な場となった。アクティブ・ラーニングの研究推進に関する内容は、今年度の大きな取り組みの一つとなった。

また、「ベストクラス賞創設の検討」は、F D 活動交流会において議論をスタートさせたばかりであるが、高等教育機関における授業がどうあるべきかを、教職員と学生・院生が議論すること自体の重要性を確認させてくれるものであったと感じている。創設の可能性に関する議論は、今後も継続していく必要がある。

昨年度から全科目で実施している学生による授業評価に関しては、学生参画を視点とした評価項目の見直しに関する議論を継続して行ってきた。

F D 推進活動では、多忙な日々の中で地道に授業改善に取り組まれている教員の方々の活動を支援し、またその貴重な取り組みを掘り起こしていくことが重要だと考えている。学内で行われている様々な取り組みを F D に位置づけながら、兵庫教育大学の教育活動の一層の充実をめざしていきたい。F D 推進活動にご理解とご協力をいただいている皆様に、感謝を申し上げます。

目次

はじめに

I. 平成25年度のFDに関する取組実績	
－「FD活動の活性化」について－	1
II. 1年間の活動スケジュール	2
III. 平成25年度教職大学院授業改善・FD委員会活動のまとめ	3
IV. 資料	4
資料1. 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント 推進委員会規程	5
資料2. 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	7
資料3. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(平成25年度)	8
資料4. 兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	9
資料5. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(平成25年度第1回～第8回) 議事要旨	10
資料6. 本学におけるFDの定義について	28
資料7. 兵庫教育大学におけるFD活動の現状と今後の方向性(H25.5.18 関西地区FD 連絡協議会第6回総会 ポスターセッション「FD活動報告会」発表資料)	29
資料8. 兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会(第1回)の実施結果について	30
資料9. 第1回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会アンケート (リアクションシート)集計結果	31
資料10. 授業公開の実施に関する申合せ	35
資料11. 平成25年度「特定期間による授業公開」の実施結果について	36
資料12. 「学生による授業評価」集計結果出力表(例)	37
資料13. 平成25年度前期「学生による授業評価」実施結果	39
資料14. 平成25年度後期「学生による授業評価」実施結果	40
資料15. 学生・教職員FD活動交流会 －「ベストクラス賞」創設のための検討について－の実施結果について	41
資料16. 平成25年度FD研究会参加状況一覧	42

I. 平成25年度のFDに関する取組実績 －「FD活動の活性化」について－

1. 平成25年度のFD推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。

中期計画23	全学的なファカルティ・ディベロップメント活動や教育活動に対する評価結果を、教育の質の向上や改善に結びつけるための組織的取組を行う。
年度計画26	授業の改善に継続的に取り組み、授業力の向上のために評価結果のフィードバック方法について更なる検討・改善を行う。

《資料4～7 参照》

2. 企画運営会議における当面の重点事項として掲げられた事項は次のとおりである。

(1)「アクティブ・ラーニング」(学生参加型双方向授業)に関する研究推進

アクティブ・ラーニングに関する講演会等を実施し、アクティブ・ラーニングに関する研究を推進する。《資料8～11 参照》

(2)授業評価方法の改善, 評価結果の活用・公表

昨年度から全科目で実施している授業評価について、項目の見直し, 及びフィードバック方法に関するさらなる検討を行う。《資料12～14 参照》

(3)FD活動の掘り起こしと情報提供

本学におけるFD活動の定義を検討するとともに、学内で行われているFD活動を掘り起こす。

(4)「ベストクラス賞」創設の検討

学生参画を基本方針として、ベストクラス賞の創設を検討する。《資料15 参照》

(5)新任教職員研修の充実

- ・FDの定義や取り組み内容等について、年度当初の全学教職員会議, 新任教職員オリエンテーション及び新入学生オリエンテーション等で周知する。
- ・FD活動の取り組み状況について、年間スケジュールや内容等を説明したリーフレットを作成し, 教職員・学生に配付する。

Ⅱ. 1年間の活動スケジュール

日付	事項
平成25年5月18日	関西地区FD連絡協議会第6回総会 「FD活動報告会2013」ポスターセッション発表
平成25年5月20日	FD推進委員会（第1回）
平成25年7月1日 ～7月5日	「前期特定期間における授業公開」を実施
平成25年7月1日 ～9月26日	前期「学生による授業評価」の実施
平成25年7月3日	FD推進委員会（第2回）
平成25年7月5日 ～7月17日	「前期特定期間における授業公開」に関するアンケート調査実施
平成25年9月5日	FD推進委員会（第3回）
平成25年10月2日	「兵庫教育大学におけるFDの定義」の制定（教育研究評議会で決定）
平成25年10月16日	FD推進委員会（第4回）
平成25年10月21日 ～10月31日	「学生による授業評価」についてのアンケートの実施（対象：教員）
平成25年12月9日	FD推進委員会（第5回）
平成25年12月12日	「後期における授業公開」を実施
平成25年12月20日	兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会（第1回）を実施
平成26年1月8日 ～3月14日	後期「学生による授業評価」の実施
平成26年1月27日	FD推進委員会（第6回）
平成26年1月28日	FD推進委員会（第7回）メール会議
平成26年3月6日	学生・教職員FD活動交流会（第1回）
平成26年3月27日	FD推進委員会（第8回）

Ⅲ. 平成25年度教職大学院授業改善・FD委員会活動のまとめ

活動領域	No.	活動項目	種類	計画内容	達成基準	活動実績	年間評価
1 研修会等による教員の授業技術向上方策	1	他大学FD活動の情報収集	継続	他大学とのFD協議会やFDシンポジウムから情報収集。	年間2回以上	・九州大学、神戸女子大学で意見交換	B
	2	教員向けFDセミナーの開催	継続	・FD活動の取組状況に係る研修会等を実施 ・eポートフォリオの活用に係る研修会等を実施	・年間5回以上 ・参加者150人以上	・FD研修会の実施。(第1回:4/1 第2回:4/15、第3回:10/9、参加者総数103名)	C
	3	eポートフォリオの活用	充実	eポートフォリオを活用した学生との双方向のやり取りの実現	学生と教員が使用可能な状態	・各コースとも積極的に活用。 ・来年度、システム改訂予定。	B
2 授業評価による教員の授業技術向上方策	4	授業評価結果と改善策の学生報告	継続	授業評価結果と改善策を学生に提示	4月15日に実施	4月15日に実施(学生22名参加) ・本年度より「共通基礎科目」は全コース合同で実施し、他の科目はコースごとに実施する方法に変更した。	A
	5	「教育課程」評価、「共通基礎科目」・「専門科目」の授業評価を実施	継続	・評価ソフトを活用して、「教育課程」「共通基礎科目」「専門科目」について、教員自己評価と学生の授業評価を実施	・外部評価委員会、教員会議で評価結果報告 ・担当教員に結果開示 ・学生回収率90%以上	・前・後期評価で、それぞれ教員自己評価と学生による教育課程評価と授業評価を実施した。(前期学生回収率は93.5%、後期学生回収率は93.5%)	B
	6	「実習科目」「課題研究」の授業評価を実施	継続	評価ソフトを活用して、「実習科目」「課題研究」について、教員自己評価と学生の授業評価、実習校評価の多面評価を実施		・後期評価で、教員自己評価と学生の授業評価、実習校評価の多面評価を実施した。(実習校回収率は88%)	B
	7	評価ソフトの改善	新規	評価ソフトの運用の利便さを目指したシステムの改善	年度末までに改善完了	・教育課程、各科目の専攻全体の評価結果が、経年度(3か年)出力されるよう評価システムを改善した。	B
	8	修了生に対する教育成果調査の実施	継続	修了生に対する教育成果調査システムを開発	年度末までにプロトタイプ開発	・年度内に2回のFD委員会を開催し、本学教職大学院修了生に対する学修成果を検証するシステムの構築について検討し、平成26年度に開始できるよう準備を進めた。	B
	9	FD委員会で、学生から意見を聴取	継続	FD委員が各コースの学生から、教育課程や授業科目への要望・意見を聴取	前後期末に実施	・各コース、授業科目において随時実施。	B
	10	実習、課題研究の改善	充実	実習や課題研究の改善を実施	学生、実習校による評価の改善	・課題研究学生評価:4.1→4.3 ・実習科目学生評価:3.6→4.1	A
3 外の風によるFD	11	教育実践高度化専攻の授業公開	継続	・公開授業やゼミ公開等を実施。 ・授業公開を学部FD委員会と連携して実施。	・公開授業を実施	・5月11日に公開授業を実施。 ・10月5日に公開授業を実施。	A
	12	各種媒体で、教職大学院情報の露出	継続	新聞や専門誌、また学会等のパネルで、教職大学院情報を積極的に発信	3回以上	・文科省先進的カリキュラム開発研究で3回実施。 ・教職大学院協会シンポジウム(12月8日)のポスターセッションで、修了生の学修成果を展示。	B
	13	全学公開授業週への積極的な参加	新規	全学で11月に実施する公開授業週間に積極的に関与し、授業公開を推進	授業参観者数20名以上	・12月20日「アクティブラーニング」に係る特定の教職大学院の授業科目を公開。(参加者数は学外参加者を含め36名)	B

(註1) S:計画を上回った進捗、A:計画通り、B:おおむね計画通り、C:計画を下回った進捗。

(註2) 上記表中の網掛け部分は、教育課程・授業評価に直接関連する項目。

IV. 資料

- 資料1. 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程
- 資料2. 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図
- 資料3. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿（平成25年度）
- 資料4. 兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み
- 資料5. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成25年度第1回～第8回）
議事要旨
- 資料6. 本学におけるFDの定義について
- 資料7. 兵庫教育大学におけるFD活動の現状と今後の方向性（H25.5.18 関西地区FD連絡
協議会第6回総会 ポスターセッション「FD活動報告会」発表資料）
- 資料8. 兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会（第1回）の実施結果について
- 資料9. 第1回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会アンケート（リアクションシート）
集計結果
- 資料10. 授業公開の実施に関する申合せ
- 資料11. 平成25年度「特定期間における授業公開」の実施結果について
- 資料12. 「学生による授業評価」集計結果出力表（例）
- 資料13. 平成25年度前期「学生による授業評価」実施結果
- 資料14. 平成25年度後期「学生による授業評価」実施結果
- 資料15. 学生・教職員FD活動交流会
－「ベストクラス賞」創設のための検討について－の実施結果について
- 資料16. 平成25年度FD研究会参加状況一覧

国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

〔平成16年4月1日〕
規程第17号改正 平成17年3月31日
平成17年9月6日
平成18年3月8日
平成18年7月12日
平成18年12月6日
平成19年3月14日
平成20年1月16日
平成20年3月11日
平成23年3月14日

(設置)

第1条 国立大学法人兵庫教育大学（以下「本学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 教育支援（FD）担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻又は特別支援教育専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教 2人
 - イ 教育内容・方法開発専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教 3人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教 1人

(4) 学長が指名した者

- 2 前項第3号及び第4号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。
- 3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第1項第2号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FDに係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他FDに関すること。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部教育支援課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

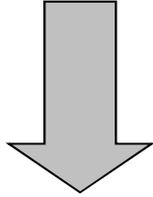
附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず平成24年3月31日までとする。

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図

FD推進委員会



国立大学法人兵庫教育大学における

- FDに係わる調査・研究に関すること。
- 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- 教育改善に係る評価に関すること。
- その他FDに関すること。

兵庫教育大学の教育研究組織

学校教育学部
(学士課程)

大学院
学校教育研究科
(修士課程)

大学院
学校教育研究科
(専門職学位課程)

○特化して企画・実施する。

授業改善・FD委員会

教育実践高度化専攻に係るカリキュラム及び授業の改善並びに教育実践高度化専攻担当教員の教育内容及びその方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。

○特化して企画・実施する。

連合大学院研究指導検討会

連合大学院の研究指導の内容・方法等の改善を図るため、毎年度研究指導検討会を開催。

大学院
連合学校教育学
研究科
(博士課程)

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿（平成25年度）

所属等	職名	氏名	任期	備考
—	副学長	福本 謹一	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (教育支援(FD)担当)	吉水 裕也	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 学校心理・発達健康教育コース	教授	浅川 潔司	H24.4.1 ~H26.3.31	第3号委員
特別支援教育専攻 障害科学コース	准教授	井澤 信三	H24.4.1 ~H26.3.31	〃
教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	教授	松山 廣	H24.4.1 ~H26.3.31	〃
教育内容・方法開発専攻 文化表現系教育コース	准教授	寺尾 裕子	H24.4.1 ~H26.3.31	〃
教育内容・方法開発専攻 行動開発系教育コース	教授	山本 忠志	H24.4.1 ~H26.3.31	〃
教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	准教授	山中 一英	H24.4.1 ~H26.3.31	〃
教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	准教授	隈元みちる	H24.4.1 ~H26.3.31	第4号委員

兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み

FDとは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

前期末および後期末に全ての授業で授業評価を行っています。評価結果は10～11月（前期）と4～5月（後期）にフィードバックされます。よい授業をつくるためには、教職員と学生が協力して授業を作り上げる必要があります。

授業の参加者として、責任を持って授業評価に参加してください。授業評価の結果は、HPで学内公開されています。



本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。

また、特定期間を設けて授業を公開する取り組みも行っています。

よい授業とはどのような授業なのか。それを教職員と学生が一緒に考えています。

ベストラチャーではなく、授業はその参加者全員によってつくられるという考えのもと、ベストララスという概念を探っています。

授業研究のために、アクティブラーニング研究会を行っています。公開授業と授業研究会を学生参画のもとで行っています。

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 1 回）議事要旨

日 時 平成 25 年 5 月 20 日（月）10:40～12:18

場 所 事務局 2 階中会議室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，井澤委員，寺尾委員，松山委員，山本委員，
（欠席）浅川委員，隈元委員

議 事

審議に先立ち，資料 1～2 に基づき，本年度の F D 推進委員会委員は，昨年度に引き続き同メンバーである旨の確認が行われた。

また，委員長から，副委員長については，昨年度に引き続き，山中委員に依頼したい旨の提案が行われ，了承された。

引き続き，資料 3 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

(1) 平成 25 年度の F D 活動について

委員長から，平成 25 年度計画の達成に向けて，本年度の大学経営の重点事項として「F D 活動の活性化」が掲げられたことに伴い，資料 4～5 に基づき，25 年度の重点事項の説明が行われ，取組内容について提案が行われた。

各委員からの意見は次のとおりである。

- ・アクティブラーニングの概念を「本学ではどのように捉えるのか」ということから検討を始める必要がある。
- ・授業評価項目を再検討するとあるが，「現状の項目に不備がある」とか，「項目数に問題がある」ということの指摘があつてのことなのか。
→ 昨年度実施した F D 委員会委員研修会で，講師に招いた愛媛大学の山田先生から，①学生参画の視点を授業評価項目に入れる，②授業内容に関する理解度についての項目を検討する，といったアドバイスがあつたことや，昨年度の委員会でも，F D 活動に学生を参画させるという昨今の流れを考え，学生の意識も併せて議論すべきではないかという意見があつたことを踏まえて，今年度の取組内容として提案した。
- ・学内で潜在している様々な F D 活動を掘り起こすにあたっては，本学の F D 活動の定義を示すこと，また定義し直すことが差しあたつての検討課題ではないかと思う。
- ・学生が授業内容を理解しているかを常に意識しながら授業をすすめることも F D だと思っている。
- ・リメディアル教育の重要性が一般的に言われており，本学では初年次セミナーなどで大学での学修について教授しているが，もう少しリメディアル教育の機会を増やしてもよいのではないか。
- ・教員養成大学である本学はミッションがはっきりしているのので，日頃の授業はすべてミッションを達成するための手段に転化されてしまい，主体的に学ぶということにおいては不十分であるように感じているので，その辺りをどのように打破していくのかということも課題である。
- ・「ベストクラス賞」の創設の検討については，テーマを定めてカテゴライズしたうえで進めてはどうか。
- ・1 回 1 回の授業内容の工夫も大切だが，15 回を通してどのような学修を行うのかがしっかり

練られて構成された授業もあり、大変参考になった。

- ・他大学の事例も調査して、多角的な視点に立って「ベストクラス賞」という概念を構築できるのかということを検討してはどうか。
- ・新任教職員研修は既に所掌部署があると思うが、FD推進委員会で取り組む必要性は何か。
→ 新任教員（特に大学院を出てすぐの方と大学での勤務経験のない実務家教員）に対してアクティブラーニングを含む、大学での授業の作り方や、授業づくりで困ったときの相談相手などの情報提供ができるようなパッケージづくりを考えたい。
- ・専門職大学院での授業改善・FD委員会での活動内容も全学的な取組として協働・共有していく必要がある。

上記の意見を受けて、重点事項（3）「FD活動の掘り起こしと情報提供」の取組内容に、次の内容を追加することが了承された。

○本学におけるFD活動について定義することが重要な課題であり、引き続き検討を行う。

（2）平成25年度「FDによる授業公開（特定期間）」について

委員長から、本年度の重点事項に関連して、資料6～8に基づき、本年度においても特定期間を設けて授業公開を実施することの説明が行われた。

なお、公開する内容について、次のとおり提案が行われ意見交換ののち、原案を一部修正して実施することが了承された。

また、公開期間については、次のとおりとすることとされた。

《原 案》

【公開内容】

〔前期〕 加東キャンパス内で開講される全授業科目（授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業科目を除く。）を対象として公開する。

また、「学生のおすすめ授業に関する聴き取り会」で「学生のおすすめ授業」が選定できれば、併せて当該授業科目を紹介する。

〔後期〕 「学生のおすすめ授業に関する聴き取り会」で「学生のおすすめ授業」を選定し公開する。

【公開期間（特定期間）】

〔前期〕 平成25年 月 日（ ）～平成25年 月 日（ ）

〔後期〕 統一した期間を予め設けず、「学生のおすすめ授業」に選定された授業担当教員と調整の上、期間の周知を行う。

《修正後》

【公開内容】

〔前期〕 加東キャンパス内で開講される全授業科目（授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業科目を除く。）を対象として公開する。

〔後期〕 教員や学生からの情報をもとに公開する授業を選定し、授業担当教員と調整の上、公開する。

【公開期間（特定期間）】

〔前期〕 平成25年7月1日（月）～平成25年7月5日（金）

〔後期〕 統一した期間を予め設けず、公開する授業として選定された授業担当教員と調整の上、公開期間の周知を行う。

また、資料7「授業公開の実施に関する申合せ」については、教員や学生からの情報をもとに

公開する授業の選定を行うことを検討することとなったため、次回以降の委員会で改正（案）を提示することとされた。

(3) 学生による授業評価について

委員長から、資料9-1～9-4に基づき、本年度の実施方法については、昨年度後期に実施した方法で行うことの説明が行われ、原案のとおり了承された。

(4) 平成25年度FD推進経費について

委員長から、資料10に基づき、本年度のFD推進経費についての説明が行われた。

また、資料11に基づき、FD推進経費での出張希望があったことの説明が行われ、広く案内が行われていないFD関連の授業見学や情報収集についても、次のガイドラインに沿って同様に旅費等の支給を行うことが了承された。

〈FD関連の授業見学や情報収集等にかかる旅費等支給のガイドライン〉

- ①FDとしての意義を明記した出張計画書を提出する。（様式については事務局で検討の上作成する。）
- ②当該年度の予算の範囲内とする。
- ③出張後は、以降のFD推進委員会で当日の抜粋資料及びA4版1枚程度の報告書を作成の上、報告を行うものとする。
- ④提出された出張計画書の内容がFDに関連するものであるか否かについては委員長が判断し、旅費等支給を決定する。

2. 報告事項

(1) 第1回大学コンソーシアムひょうご神戸 研修交流委員会について

委員長から、資料12に基づき、5月13日（月）に開催された「第1回大学コンソーシアムひょうご神戸 研修交流委員会」の概略について報告が行われた。

(2) 関西地区FD連絡協議会第6回総会について

山中副委員長から、資料13～15に基づき、5月18日（土）に開催された「関西地区FD連絡協議会第6回総会」の概略及び「FD活動報告会2013」での発表内容について報告が行われた。

(3) 出席管理システムの試行的導入について

委員長から、資料16～17に基づき、端末機器を利用した出席管理システムの利用状況について報告が行われ、今後、利用者に対しアンケートを実施し、システムのカスタマイズ等を検討する予定であることの説明が行われた。

3. その他

次回委員会については、6月中を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 2 回）議事要旨

日 時 平成 25 年 7 月 3 日（水）9:00～10:30

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，浅川委員，井澤委員，松山委員，山本委員，
隈元委員（欠席）寺尾委員

議 事

審議に先立ち，天根教授と淀澤准教授から，他大学の F D 事業等への参加報告が行われた。
引き続き，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり
了承された。

1. 審議事項

(1) アクティブラーニングに関する研究推進について

委員長から，資料 2 に基づき，6 月 6 日に開催された企画運営会議で「当面の重点事項における
検討課題および工程表」の取組方針等について検討され，資料 2 のとおり進めることとなった旨の
説明が行われた。

また，重点事項に取り組むにあたり，次の事項についてのブレインストーミングが行われた。
各委員からの意見は次のとおりである。

i 本学における F D の定義について

- ・ F D を「授業」に限定する必要はない。
- ・ 教員の授業改善を核にした組織的取組である。
- ・ 授業が改善されたかどうかの評価を伴うものとしての視点がある。
- ・ 普段の取組を皆で共有しながら，授業改善に役立てる。例えば，教職大学院の専攻や各コースでは，毎学期毎に聴き取りを行い，授業改善に役立てている。
- ・ 学生が大学教育に対してどのような認識をもっているのか。
- ・ どうなれば改善されたことになり，教員は大学教育で何をを目指すのか。
- ・ 教員養成スタンダードとの連携も考えていかなければならない。
- ・ F D の目的は，各大学が掲げているその大学での教育をきちんと学生が実現していけるような改善を図ることなのではないか。
- ・ 教科や領域に影響されない思考力を目指すならば，大学教員の力量も考える必要があるし，授業をどのように捉えるのかによって，本学に必要なものは変わってくる。
- ・ 授業評価を授業終盤で行うことは，その授業を履修している学生に対しての授業改善には結びつかない。
- ・ 授業終盤で行う「授業評価」については，学期の初めに，学生はどのような視点で評価を行うのかを説明し，授業を受けさせる必要がある。
- ・ 他大学では，前年度の履修学生がラーニングアシスタントとして，同じ授業を受ける制度があるところもあり，学び直しの機会となっている。

- ii 本学におけるアクティブラーニングの概念について
- ・学生が参画するものとしては、論文発表会も良い例である。
 - ・授業時間すべてをアクティブラーニングに充てるのではなく、教員が授業を進める時間と学生が参加する時間をつくる。
 - ・アクティブラーニングは、授業改善を図るためのツールとしての授業方法の一つである。
 - ・中規模～大規模の授業に対しては、どのようにアクティブラーニングを実施するべきなのか。
 - ・一方で、大学は、大学卒レベルの教育を行う必要がある。教員養成機関としてのミッションにばかりこだわってもいけないのではないか。
 - ・本学の目標に照らして現状を見たときに、どのようなアクティブラーニングが本学で必要なのかということになるのではないか。
- iii 「ベストクラス」の概念について
(特に述べられた意見なし)

上記の意見を受けて、次回の委員会で継続審議とすることが了承された。

引き続き、委員長から、後期の授業公開として、学内アクティブラーニング研修会を実施し、研修会終了後授業研究会を同日に開催することが提案され、次回の委員会で内容等を審議することとされた。

(2) 学生による授業評価の項目について

委員長から、資料3～4に基づき、現行の「学生による授業評価」項目に決定された経緯等の説明が行われ、今後の授業評価項目の検討に向けては、学生参画の視点から、評価項目を追加することを検討することとし、次回の委員会で継続審議とすることが了承された。

2. 報告事項

(1) 「本学のFD活動」に関するHPの改修について

委員長から、資料5に基づき、「本学のFD活動」に関するHPの現状について説明が行われ、改修案について報告が行われた。

なお、HPの改修にあたっては、担当部署（総務課）との調整が必要であるため、ページデザイン、階層を含めた構成については、委員長に一任願いたい旨の説明が行われ、了承された。

(2) 出席管理システムの利用状況について

委員長から、資料6に基づき、前回委員会で報告が行われた端末機器を利用した出席管理システムの利用者に対しアンケートを実施したことの説明が行われ、その集計結果について報告が行われた。

なお、業者から提案のあった改善策のうち、すぐに対応できる軽微なものについては、早急に改善する旨の報告が行われた。

(3) 平成25年度大学評価フォーラムについて

委員長から、資料7に基づき、7月22日（月）に開催される「平成25年度大学評価フォーラ

ム」への参加については、3名の委員及び1名の事務職員から申し出があったことの報告が行われ、次回委員会でフォーラムの内容について報告する旨説明が行われた。

3. その他

(1) 携帯電話やスマートフォンによる授業評価アンケートの実施について

栗山教育支援課長から、参考資料に基づいて、授業評価の方法として、現状のマークシートに替えて、携帯電話やスマートフォンによるアンケートの実施について、他大学等の導入事例が紹介された。

なお、本学での導入の可能性については、今後委員会に諮っていきたい旨の説明が行われた。

(2) 次回委員会については、9月上旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 3 回）議事要旨

日 時 平成 25 年 9 月 5 日（木）10:40～12:20

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，松山委員，寺尾委員，山本委員，隈元委員
（欠席）浅川委員，井澤委員

議 事

審議に先立ち，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）本学における F D の定義について

委員長から，前回 7 月 3 日開催の本委員会で継続審議することとされた F D の定義について，資料 1（第 2 回議事要旨）に基づきブレインストーミングの内容の確認が行われた。

引き続き，資料 2 に基づき，本学における F D の定義（案）について意見交換が行われ，以下のとおり一部修正し，本学における F D の定義とすることとされた。

【原案】

本学のミッション及びビジョンを実現するために，大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して，教員と事務職員が協働し，学生の参画を得て行う教育の質保証をめざすあらゆる取組であり，それらの取組の妥当性，有効性について継続的に検証を行い，更なる改善に活かしていく組織的活動である。

↓

【修正後】

兵庫教育大学における F D とは，本学のミッション及びビジョンを実現するために，大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して，教員と事務職員が協働し，学生の参画を得て行う，教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

（2）アクティブラーニングに関する研究推進について

①本学におけるアクティブラーニングの概念について

委員長から，前回 7 月 3 日開催の本委員会で継続審議することとされたアクティブラーニングの定義について，資料 1（第 2 回議事要旨）に基づきブレインストーミングの内容の確認が行われ，今後本学で実施するアクティブラーニング研修会等で意見を聴取することで，徐々に明確にしていくこととされた。

②学内アクティブラーニング研修会実施計画について

前回の本委員会でのブレインストーミングの内容を踏まえて資料 3 のとおり「学内アクティブラーニング研修会実施計画（案）」の提案が行われ，後期授業公開として位置づけること及び実施方法等について意見交換が行われ，枠組み（授業者の募集方法を含む）について了承され，授業者に

については、全教員へ公募することとされた。

なお、アクティブラーニング研修会開催にかかる詳細については、次回の委員会で継続審議することとされた。

また、「アクティブラーニング」の表記については、文科省で用いられている「アクティブ・ラーニング」とすることとされた。

引き続き、学内のFD活動を掘り起こし蓄積していくために、教員の取組事例について、情報提供を呼びかけることの説明が行われ了承された。併せて、学校経営コースの大野裕己准教授から情報提供のあった報告書（資料4）の紹介が行われた。

次いで、資料5-1及び資料5-2に基づき、平成25年度「前期特定期間における授業公開」の実施結果について報告が行われた。

なお、本件については、本委員会の開催日程の都合上、研究科・学部教授会での報告が先行したことの説明が行われた。

(3) 「ベストクラス賞」創設の検討のための「ベストクラス」の概念について

委員長から、前回委員会からの継続審議として、資料6に基づき、一般的に「ベストティーチャー賞」の設置はあるが、「ベストクラス賞」についての他大学等の設置例については十分な資料はないこと、また、本学において、どのような概念をベストクラスと呼び、どのように選考することができるのか、その可能性等について説明が行われ、ブレインストーミングが行われた。

各委員からの意見は次のとおりである。

- ・「ベストクラス」のクラスは、コース等の単位ではなく、受講科目を指す。
- ・クラスサイズや授業形態を検討する必要がある。
- ・学生を巻き込んで、学生がどのように「ベストクラス賞」の設置等に関わっていくのか。
- ・教員の授業内容について、学生自身の学びの責任も問うべきである。
- ・授業評価アンケートの項目に、学生自身の出席や授業参加の項目を追加するべきである。

上記の意見を受けて、次回の委員会で継続審議することとされた。

(4) 学生による授業評価の項目について

委員長から、前回委員会からの継続審議として、資料7-1から7-4に基づき、現行の「学生による授業評価」項目に決定された経緯等の説明が行われた。

また、24年度の授業評価から、現行の「学生による授業評価」項目に変更されて3回授業評価を実施したことから、今後の評価項目追加の議論については、全教員から意見を聴くことによって進めていきたい旨の提案が行われ了承された。

次回以降の委員会で継続審議することとされた。

2. 報告事項

(1) 他大学等のFD事業等への参加について

- ① 資料8に基づき、7月5日（金）に開催された「第12回manabaセミナー」に、淀澤准教授、栗山教育支援課長及び中西教務チーム主査が参加したことの報告が行われ、栗山教育支援課長から内容について報告が行われた。

- ② 資料9に基づき、7月12日（金）に開催された「第9回関西大学FDフォーラム」に、山中委員が参加したことの報告が行われ、山中委員から内容について報告が行われた。
- ③ 資料10に基づき、7月22日（月）に開催された「平成25年度大学評価フォーラム」に、委員研修の一環として、吉水委員長、寺尾委員、廣田教務企画チーム主査の3名が参加したことの報告が行われ、寺尾委員から内容について報告が行われた。

これらの報告にかかる詳細資料の閲覧については、教育支援課に問い合わせ願いたい旨の説明が行われた。

3. その他

次回委員会については、10月上旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 4 回）議事要旨

日 時 平成 25 年 10 月 16 日（水）13:10～14:40

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，井澤委員（代理出席 岡村章司准教授），松山委員，寺尾委員，山本委員（代理出席 小田俊明准教授），隈元委員
（欠席）浅川委員

議 事

審議に先立ち，安原准教授から，他大学の F D 事業への参加報告が行われた。
引き続き，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）学内アクティブ・ラーニング研修会について

委員長から，資料 3 から 4-2 に基づき，学内アクティブ・ラーニング研修会における授業者の応募状況について報告が行われ，意見交換の結果，伊藤博之講師（授業実践リーダーコース）を授業者とすることが決定された。

また，以下のとおり決定された。

- ・研修会開催に向けての授業者との連絡調整は，教育支援課で行う。
- ・外部講師については，昨年度の委員研修会講師の愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室へ講師依頼すること。また，調整については，教育支援課で行う。
- ・次回以降の委員会で，学内アクティブ・ラーニング研修会開催に向けての進捗状況の説明および研修会の進め方について検討を行う。
- ・当該研究会については，当初学内限定で実施することとされていたが，本学の F D 活動をアピールするために，関西地区 F D 連絡協議会等を通じて，学外へ周知する。

（2）学生による授業評価の項目について

委員長から，前回 9 月 5 日開催の本委員会で継続審議することとされた「授業評価の項目」について，資料 5 に基づき説明が行われた。

また，「授業評価の項目」を含め，授業評価のあり方に対するアンケートを全教員に対して実施することが決定され，次回の委員会でアンケート結果をもとに「授業評価の項目」等について審議することとされた。

（3）「ベストクラス賞」の創設について

委員長から，前回 9 月 5 日開催の本委員会で継続審議することとされた「ベストクラス賞」の創設について，ブレインストーミングの内容を確認し，資料 6 に基づき，今後の創設に向けた方向性について意見交換が行われた。

学生参画について，各委員から次のとおり意見が述べられた。

- ・特定の学生が委員とならないような仕組みおよび任期を設ける必要があるのではないか。
- ・学部学生だけでなく，院生協議会から大学院生の参画を依頼してはどうか。

- ・コース毎のローテーションを組み、2・3年次生のクラス幹事から毎年数名ずつ学生を選んで
はどうか。
- ・人数枠を決めて、公募してはどうか。

2. 報告事項

(1) FDの定義について

委員長から、10/2の評議会の議を経て、同日の教授会で報告を行い、10/3付けメールで全学へ周知したことの報告が行われた。

(2) 前期授業評価のフィードバックについて

委員長から、前期授業評価のフィードバックにかかる今後の予定について説明が行われた。

(3) 取材について

委員長から、学校法人河合塾から同法人発行の進路指導情報誌『ガイドライン』2013年11月号に掲載される「ひらく日本の大学」の取材を受けたことの報告が行われ、同冊子の発行後、掲載記事については、本学HPに掲載することの説明が行われた。

3. その他

次回委員会については、11月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 5 回）議事要旨

日 時 平成 25 年 12 月 9 日（月）10:40～12:10

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，井澤委員，松山委員，寺尾委員，山本委員，
隈元委員
（欠席）浅川委員

議 事

審議に先立ち、淀澤准教授及び寺尾委員から、他大学のFD事業への参加報告が行われた。
引き続き、資料4に基づき、前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ、原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）アクティブ・ラーニング研修会について

委員長から、資料に基づき、アクティブ・ラーニング研修会開催に向けての進捗状況について報告が行われ、また、研修会の進め方について資料8及び9に基づき提案が行われ、了承された。

（2）学生による授業評価の項目について

委員長から、資料10-1から10-2に基づき、全教員を対象に実施した『「学生による授業評価」についてのアンケート』結果の説明が行われ、本結果のフィードバックについては、本委員会各委員から、その選出された専攻またはコースへの周知を行うこととされた。

なお、来年度以降の授業評価の項目等について、次のとおり検討が行われた。

- ・学生の授業への参加度・出席度を設問項目にしてはどうか。
- ・全ての科目について一律的な評価項目でよいのか。また、専門職学位課程で行われている評価を採り入れてはどうか。
- ・授業評価がどのような意味をもっているのか、どのように活かされているのかを踏まえて、学生の責任として授業評価をする、学生は授業評価をする権利があるということを、年度当初に学生に説明する機会が必要。また、教員に対しても授業評価が、授業改善として機能するよう定期的に周知していくべき。
- ・学生参画を促す意味でも記名式とすることも検討してはどうか。
- ・教務システム(LiveCampus)を活用したアンケートの実施や設問項目を自在に作成し評価のみ既成のマークシートで実施する方法も採り入れてはどうか。

（3）平成 25 年度年度計画実績評価票(中間報告)の提出について

委員長から、資料11に基づき、年度計画実績評価票（中間報告）（案）について説明が行われ、内容の確認が行われた。これらについて、意見がある場合は、12/11（水）までに、教育支援課教務企画チームに連絡願いたい旨の依頼が行われ、提出意見の取り扱いについては、委員長に一任することとされた。

（4）「ベストクラス賞」の創設について

前回委員会で継続審議することとされた「ベストクラス賞」創設にかかるブレインストーミングの内容について、資料4（前回議事要旨）に基づき確認が行われ、今後の創設に向けた方向性については、学生に対しては「ベストクラス賞を創設できるかどうかを検討するための会」として周知し、議論の場をつくることから始めることとされた。

次回委員会で、参画学生の募集及びその会での具体的な検討内容について、原案を事務局で作成し、提案することとされた。

2. 報告事項

- (1) 平成 25 年度前期「学生による授業評価」の実施結果について
委員長から、資料 1 2 から 1 4 に基づき報告が行われた。
なお、資料 1 3 および 1 4 については、本学における個々の教員及び大学全体の授業改善に資するため、全教職員あてメールで周知することとされた。
- (2) 平成 25 年度後期「学生による授業評価」の実施について
委員長から、後期「学生による授業評価」の実施について、今後の予定について説明が行われた。
- (3) 「教職実践演習」に係る「学生による授業評価」について
委員長から、資料 1 6 ～ 1 7 に基づき、教育実践演習専門部会の取り組みについて紹介が行われた。

3. その他

次回委員会については、1 月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 6 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 1 月 27 日（月）14:50～16:00

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，松山委員，寺尾委員，山本委員，
（欠席）浅川委員，井澤委員，隈元委員

議 事

審議に先立ち，他大学のFD事業への参加報告として，淀澤准教授（急遽欠席）から提出された報告書の確認が行われ，併せて吉水委員長から京都大学高等教育研究開発推進センター第 87 回公開研究会・国際シンポジウム（1/26 開催）への参加報告が行われた。

引き続き，資料 2 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）学生による授業評価の項目について

委員長から，資料に 2 基づき，前回委員会でのブレインストーミングの内容の確認が行われ，次年度の授業評価の項目については，学生の参加度（出席度）に関する項目を盛り込むこと，また，集計を行う際には，出席回数が 2～3 回程度の学生の授業評価シートは，スクリーニングすることも検討し，授業評価を記名式にすることについても，引き続き検討することが提案され，了承された。

併せて，委員長から本委員会の委員の中でWGをつくり，原案を作成したうえで，次回以降の委員会に諮ることが提案され，了承された。

（2）「ベストクラス賞」の創設について

委員長から，資料 3-1 及び 3-2 に基づき，前回委員会で継続審議することとされた「ベストクラス賞」創設について説明が行われ，「学生・教職員FD活動交流会実施要項（案）」について原案のとおり了承された。

また，学生・教職員FD活動交流会への参加学生の公募に関しては，事務局で原案を作成後，委員へ照会したうえで，周知することとされた。

（3）新任教員に対する研修について

委員長から，資料 4 に基づき，今年度の重点事項の「新任教職員研修の充実」の取り組み内容について確認が行われ，今後の進め方について以下のとおり了承された。

- ①FDの定義や取り組み内容等について，年度当初の全学教職員会議，新任教職員オリエンテーション及び新入学生オリエンテーション等で周知する。
- ②FD活動の取り組み状況について，年間スケジュールや内容等を説明したリーフレットを作成し，教職員・学生に配付することを検討する。

2. 報告事項

（1）平成 25 年度後期における授業公開の実施結果について

委員長から，資料 5 に基づき，実施結果の報告が行われた。

- (2) アクティブ・ラーニング研修会の実施結果について
委員長から、資料6および7に基づき、実施結果の報告が行われた。
また、研修会後半の授業研究会で議論された内容については、次回の委員会で報告を行うこととされた。
- (3) 他大学のFD事業等への参加について
委員会冒頭で報告が行われた。

3. その他

- ・寺尾委員から、会議時間中は、会議室の外に会議名称等を掲示することの提案が行われ、提案のとおり対応することとされた。
- ・次回委員会については、2月下旬及び3月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 7 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 1 月 28 日（火）～ 1 月 31 日（金）

方 法 電子メールによる持ち回り会議

議題等

1. 審議事項

（1）「学生・教職員 F D 活動交流会への参加者募集について」（案）について

1/27 開催の第 6 回 F D 推進委員会において「学生・教職員 F D 活動交流会」の設置が決定されたことに伴い、資料のとおり募集を行うことについて審議が行われ、原案のとおり了承された。

また、本件についての周知方法は、教育支援課関係掲示板での掲示及び全学生宛メール配信によるものとし、教員宛には当該メールに「Cc」として学生に対する募集内容を周知するものとされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 25 年度第 8 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 3 月 27 日（月）14:50～15:40

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，井澤委員，松山委員，寺尾委員，山本委員，
隈元委員
（欠席）浅川委員

議 事

審議に先立ち，資料 1～2 に基づき，前々回及び前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）平成 25 年度年度計画実績評価票（最終報告）について

委員長から，資料 3 に基づき，年度計画実績評価票（最終報告）（案）について説明が行われ，内容の確認が行われた。

なお，年度計画実績評価票（最終報告）（案）について，意見がある場合は，3/31（月）までに，教育支援課教務企画チームに連絡願いたい旨の依頼が行われ，提出意見の取り扱いについては，委員長に一任することとされた。

（2）平成 26 年度「学生による授業評価」マークシートの改訂について

委員長から，資料 4-1 及び 4-2 に基づき，前回委員会で継続審議することとされた学生による授業評価の項目について説明が行われ，原案を一部修正のうえ，改訂することとされた。

【原案】

あなたはこの授業にどのくらい出席しましたか。		
5 回未満	5 回～10 回	11 回以上
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

【修正後】

あなたはこの授業にどのくらい出席しましたか。		
1～4 回	5～10 回	11～15 回
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

（3）平成 25 年度 F D 推進委員会活動報告書について

委員長から，資料 5 に基づき，平成 25 年度の活動報告書（案）について説明が行われ，内容の確認が行われた。

なお，他大学等で開催された研究会等への参加実績を報告書（案）に追加することとされた。

また，報告書（案）について，意見等がある場合は，3/31（月）までに，教育支援課教務企画チームに連絡願いたい旨の依頼が行われ，提出意見の取り扱いについては，委員長に一任することとされた。

(4) F D推進活動への取り組み内容について

委員長から、資料6のとおり、本学のF D推進活動の取り組み内容を示すための資料として提案が行われ、デザインの一部を変更し作成することが了承された。

なお、本資料は、新任教職員オリエンテーション(4/1)、全学教職員会議(4/2)、学部・大学院新入生オリエンテーション(4/4)で配付予定であることの説明が行われた。

2. 報告事項

(1) 平成25年度後期「学生による授業評価」の実施結果について
委員長から、資料7に基づき、実施結果の報告が行われた。

(2) 学生・教職員F D活動交流会の実施報告について
委員長から、資料8に基づき、実施結果の報告が行われた。

(3) 他大学のF D事業等への参加について
資料9～10に基づき、報告が行われた。

3. その他

委員会閉会にあたり、委員長から、24・25年度の委員会への協力について、謝辞が述べられた。

以 上

本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学におけるFD活動の現状と今後の方向性

山中一英・吉水裕也

(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

概要: 兵庫教育大学において2012年度に実施されたFD活動を概観するとともに、取り組みを通して把握された課題をもとに今後のFD活動の方向性について展望する。

キーワード: 授業評価, 授業公開, 学生参画, FD文化

取り組みの背景

○兵庫教育大学では、2009年度から3年間をかけて、すべての科目の授業評価を実施することとしていた。
→大学評価・学位授与機構の第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果(案)(2010年12月)の「教育の実施体制等に関する目標」において、3年を一括りとする方式について、「授業評価が十分に機能しているとは認められない」との指摘を受ける。



これをきっかけに、本学は、授業評価の実施形態をあらためて検討することになった。
→その結果、「3年一括り方式」を変更し、2012年度から、毎年度、全授業科目を対象に授業評価を行うことを決めた。

* 兵庫教育大学では、学校教育学部と大学院修士課程のFDについては「FD推進委員会」が、大学院専門職学位課程(教職大学院)のそれについては「授業改善・FD委員会」が、それぞれ所掌している。このたびの報告は、FD推進委員会が担当するものについてである。

取り組みの内容

○「学生による授業評価」結果のフィードバック方法に関する検討・改善

・集計結果の迅速なフィードバック

調査票の期限内回収に努め、通常開講科目と集中講義科目で集計時期を分けることで、教員が評価結果を適切なタイミングで受け取ることができるようにした。

・学生からの柔軟で適切な意見集約の方法の検討
(前年度の取り組みにおいて、評定項目を厳選することで実施コストの低減を実現したが、)実習やインターンシップなど一部の科目については、独自の授業評価アンケート等を柔軟に実施することで、より適切な意見集約を可能にした。

○授業公開の実施

本学では、従前から授業の全面公開が保障され、教員個々が日常的に「授業研究」を行い、授業の改善と改革を図ることが可能となっていたが、大学組織としての「授業研究」を推進するため、2週間程度の特定期間を設けて授業公開を実施した。

取り組みの成果と課題

■今後の兵庫教育大学におけるFD活動の方向性

□各教員の取り組みの可視化・共有とFD活動としての再定義

・本学教員のなかには、日々、授業内容や方法を省察し、工夫・改善を試みているものが少なくない。
・組織として授業改善に取り組んでいる専攻・コースがある。

→これらの取り組みの一つひとつを「見える化」することで、大学全体で共有することが可能に(「学内のあちこちで頻繁にFD活動が行われている」と認知される状況を作り出す)。



・教員個々のFD活動への関与がいっそう積極的に。
・大学が有する教育資源の掘り起こしにつながり、教員全体のFD活動への意識を高め、大学を学び合う組織へと発展させる可能性が期待できる。

★何らかの新しいFD活動を導入するのではない。既存の取り組みをFD活動として位置づけ直す(あらためて意味づける)という方向性のもの。

□学生参画の必要性と可能性

・授業評価での学生からの回答のなかには、受身的(であると判断可能)なものが少なくない。
・新人教員養成と現職教員教育を担う本学の特徴を考え合わせるなら、このような事態はけっして望ましいことではない。



・「授業は誰のものか」という問いの現れ
・「学生参画」への意識が希薄であったことへの気づき(授業評価項目に、学生自身の授業への関与という視点が含まれていない、など)



「学生参画」の必要性と可能性をめぐる全学的な議論が求められるだろう。

取り組みの視点

FD推進委員会の役割

- ・FD研究の推進(単なる問題解決を企図しない)
- ・FD文化の構築

兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会（第1回）の実施結果について

《研修会実施にかかる経緯》

本年度の大学経営の重点事項として、「FD活動の活性化」が掲げられたことに伴い、その活性化のための一策として「アクティブ・ラーニング」に関する研究推進を図ることとされ、アクティブ・ラーニング研修会を後期授業公開として位置づけること、及び研修会の授業者を公募することが決定された。

公募の結果、2件の応募があり、うち1件を「アクティブ・ラーニング研修会」での公開授業とし、もう1件は、後期授業期間中に別途アクティブ・ラーニング実践授業として授業公開することとなった。

《アクティブ・ラーニング研修会》

目 的 アクティブ・ラーニングを実践している教員の授業を参観することによって、授業改善のアイデア等の情報を共有し、教員相互の「授業研究」の場として、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進することを目的とした。

日時・内容 平成25年12月20日（金）於：総合研究棟 1階 オープンセミナールーム

①公開授業 10:40～12:10

授業科目：「教育方法学」（学部開講科目3年次生）

授業担当者：授業実践開発コース 講師 伊藤博之

授業内容：学生2名がT.Tで前半45分の授業を行い、後半45分で事後検討会を行った。

戦後の教育実践の遺産を学ぶという内容面と授業者（学生）の授業に見られた良い点や課題点を集団的に明らかにしていくことを通じて受講者全員の授業力向上を目指すという方法面の2つのねらいを持って実施した。

②授業研究会 12:10～13:00

本研修会講師（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 山田剛史准教授）を招き、授業者・受講学生・参加者で、授業者の視点での公開授業の内容、学生の参加の質、授業担当者の関わり方等について議論を行い、その後、参加者の自由な視点での意見交換を行った。

- 周知方法
- ・全教職員及び全学生あてメールにて周知
 - ・HP「本学のFD活動」にて周知
 - ・関西地区FD連絡協議会を通じて、関係大学へ広報
 - ・京都大学高等教育研究開発推進センターあさがおメーリングリストで周知

参加者数	学外 10名	学内 36名	計 46名
	(内訳) 教員 8名	(内訳) 教員 15名	
	事務職員 1名	事務職員 6名	
	その他 1名 (研究員)	学生 15名 (履修学生10名含む)	

第1回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会 アンケート（リアクションシート）集計結果

1. アンケート回答者数

教員 15名 事務職員 4名 学生 3名 その他 1名 合計 23名

【参考：アクティブ・ラーニング研修会への参加者数】

学外	教員	8名	学内	教員	15名	
	事務職員	1名		事務職員	6名	
	その他	1名 (研究員)	学	生	15名 (履修学生10名含む)	
	計	10名		計	36名	合計 46名

2. 本研究会の全体の評価をお聞かせください。

	教員	事務職員	学生	その他
①大変参考になった	9人	2人	2人	1人
②参考になった	6人	2人	1人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人	0人

3. 公開内容について

3-1 公開授業

	教員	事務職員	学生	その他
①大変参考になった	8人	3人	1人	1人
②参考になった	6人	1人	2人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人	0人

上記回答理由、その他意見等（原文ママ）

- ①具体的な学生の姿も見られたことが良かった。
- ②“内容面”での学びを、どう掘り下げるか。◎担当教員としてのこの授業の目標設定？
また批判的にどう学ばせ、どのように問題点を見出させるか。このような点を、どのように支援する場として構成するか。私としても検討していきたい。“方法面”での学びは good だと思う。（どうつながるか）
- ③積極的に参加してくれた学生さんに拍手を送ります。

- ④意欲的な学生さんばかりで活発な意見がありよかったですと思います。
意欲のない学生をどう指導するか、それは課題と思います。
- ⑤伊藤先生，参加された学生のみなさん，ありがとうございました。授業の目標とそれを達成するための今回のアプローチのメリットとデメリットが少しつかめたように思います。
- ⑥質のよいアクティブ・ラーニングを見させていただきました。自分の授業の参考にしていきたいと思います。
- ⑦現役の学生の方の実際の様子や様々な生きた意見等を伺えたので，とても参考になりました。
- ⑧「良い授業」すぎたような気がします。目的が，無事授業を終わらせるところに重きがあったようで。ただ，とてもよい学生さんだったと思います。
- ⑨限られた時間，期間（15回）の中で，どのようにデザインを組みたてていくか，まだ課題はあるかもしれませんが，とても参考になりました。
- ⑩後半45分の検討会のやり方が参考になった。
- ⑪教員をめざす学生にとって様々なことを学ぶことができる授業であり，いわば新しいパターンと言えらると思います。授業者として，事前学習で学ぶ成果も大きいと思います。授業を振り返っての授業者のまとめは，改善点・良い点ではなく，反省点・自慢点というのがないように思います。また，事前学習と実際の授業をした結果で感じたこと（例えばこう考えたことが実際には深めることができなかつたとか）指導教官とチェーターのかかわり方として，様々な学生の発言の整理（グルーピング）などのアドバイス（普段は行っていると思いますが）も必要ではないでしょうか。授業の終わりには，指導教官から，それぞれの教育遺産から具体的に学ぶことを各回の授業でコメントしてほしいと思います。
- ⑫アクティブ・ラーニングとは，どういう授業なのかその内容を実感できた点です。
- ⑬学生が，実習を終えた後に，「授業をする」とはどういうことか，この授業を通して深く体験的に学ぶことができることはとてもすばらしいと感じました。授業というのは不思議なもので，生き物，言葉でとらえることが難しいものだと思っておりますので，最後「改善点」として出て来た“板書”“ふるまい”“働きかけ”などの言葉すべてが授業の要素だということや，授業の準備の大切さを学べることは非常に有意義だと思いました。この点について学生がどこまでメタ認知して，次へとつなげられるかが大切なように思います。
- ⑭授業開始当初，パワーポイントの準備ができていない状況の中，学生さんの方が手元資料でとにかくスタートさせようと機転を効かせたところ肝心しました。その分，なぜ当初のような段取り不足が生じたのか，関係者全員で振り返っていただきたいです。担当された先生のみならず，周りの事務関係や他の先生方の動きなど，普段からの連携が関わるものだったのでないでしょうか。

⑮考えさせていただく点が多くあり参考になりました。

評価方法の指標（観点）を自分の中にどれだけでもっているかも確認。

3-2 授業研究会

	教 員	事務職員	学 生	そ の 他
①大変参考になった	8人	2人	1人	1人
②参考になった	7人	2人	2人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人	0人

上記回答理由，その他意見等（原文ママ）

- ①教員として日頃から課題として考えていたことが，取り上げられたので大変参考になりました。
- ②教員，学生から直接，声が聞けたことが有効であった。
- ③授業の見方，達成の観点をますことが大切だとわかりました。
- ④山田先生のお話がたいへん参考になりました。
- ⑤アクティブ・ラーニングを考えるいろいろなヒントをいただきました。
- ⑥伊藤先生のコメントと解説，そして山田先生のお話がとりわけ参考になりました。多くのことが学べました。
- ⑦学生が参加して下さったことが，良かった。
- ⑧山田先生のお話にあったように，研究会での「お題」目的（視点）をもう少しはっきりさせていただければと思いました。
- ⑨もっと検討，議論する時間が欲しかった。
- ⑩自大学で研究会をやるので，その参考になった。
- ⑪講師のアクティブ・ラーニングに関するコメントにより，アクティブ・ラーニングのねらいや内容，手法をわかりやすく知ることができた。
- ⑫教員や学生の方達の生の声を聞かせていただいたこと。
- ⑬アクティブ・ラーニングの基本概念について理解できた。
- ⑭時間が限られてましたので，複数の方と意見交流をする場があれば良かったと思います。
- ⑮多くの参観者の中，学生さんが実に活発に意見交換を重ね，色々な発言をされていたのに感動しました。
- ⑯ALの考え方が学びを実感できるものであるという図がありがたかった。

4. アクティブ・ラーニング研修会に関してその他ご意見をご自由にご記入ください。

（原文ママ）

- ①FDは，今回のようなstageに早く移るべきだし，そういう意味でもこのような企画は大

変良かったと思う。

②ここは教育大学ということなので、同じ方向に向いている会ではあると思います。

他学部ではどういう形でされているのか知りたいと思いました。

③機会があれば参加したいです。

④今後も、やっていただけると有難いです。

⑤FD そのものを考えることも視野に入れられれば良いかと思います。

⑥ぜひ次回も案内を頂きたく思います。有難うございました。

⑦今回はとても勉強になりました。ありがとうございます。

一点、メインキャンパスでもよいのですが、アクセスを考えるとサテライトでの行うのもよいのでは。

⑧上記と同じで、もっと時間があっても、まったく苦にならない。素晴らしい研究会でした。

⑨今後も参加したいです。

⑩全体的に素晴らしい研修会だったと思います。1点残念だと思ったことは、授業中に“とりのこされる焦り”への考察が深まらなかった点です。学生時代の傾向かもしれませんが、優秀な学生さんでも「社会のニーズ」や「他者への配慮」の為に教師という立場から貢献していく、という視点が欠けていたように思います。(交流の方法等全て“自己”を中心とした視点からのものばかりでした。)

⑪本学では、教育学部がないため、他学部での授業では、少し違うのではと考えるので、いろいろな領域で実施していただきたい。

本日は、ありがとうございました。

⑫現職教員としては、現場での実践事例について興味があります。

⑬アクティブ・ラーニングについて、全く知識がなかったのですが、今回参加してみて様々なことを考えさせられました。せつかくすぐにいすが動かせるタイプがあったので、ワークショップみたいに交流する場を設けられると良かったと思います。

⑭今後に期待しています。

⑮東洋大学の学生FDサミットの基調講演でActive Learningのお話がありそこでの定義は“学生が能動的に学習を進めていくこと”→学生が能動的に学習を進めていける授業形態・方法とありました。主人公は学びの主体者なのです。

平成21年11月6日
学長裁定
〔平成21年10月13日
FD推進委員会了承〕

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

3 公開期間

「授業研究」に対する意欲を喚起するため、2週間程度の特定期間（以下「特定期間」という。）を設けて授業公開を実施する。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

なお、各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善と改革に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、特定期間以外においても個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。

4 授業公開の方法

特定期間に係る授業公開については、事前にFD推進委員会において授業公開の可否を確認し、公開される授業科目名等を全教職員及び学習者側である学部学生・大学院学生に周知することとする。

5 その他

授業公開の成果を検証するため、各授業科目毎の参加状況等のデータを収集することとする。

平成25年度「特定期間における授業公開」の実施結果について

【目的】

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定され、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

【公開期間】

前期：平成25年 7月 1日(月)～平成25年 7月5日(金)

後期：平成25年12月12日(木) 13:10～14:40 (3限目)

【対象授業科目】

前期：加東キャンパスで開講された全授業科目について実施

(授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業科目を除く。)

後期：「アクティブ・ラーニング研修会における授業者の募集について」への応募授業

【主な周知方法】

前期：メールにて対象期間及び対象科目等を周知

本学HPのトップページにバナーを作成

学内専用HPにて周知

後期：メールにて公開日時・科目等を周知

本学HP「本学のFD活動」にて周知

【参加者数】

平成25年度(7/1(月)～7/5(金))

	参加者数※	参観授業科目数
教員	8	26
事務職員	4	18
合計	12	44

平成25年度(12/12(木))

	参加者数
教員	5
事務職員	5
合計	10

※ただし、アンケート回収結果による参加者数

(参考)

平成24年度(前期)

参加者数	参観授業科目数
37	125

平成24年度(後期)

	参加者数	参観授業科目数
教員	15	32
事務職員	15	40
合計	30	72

平成23年度(11/7(月)～11/18(金))

	参加者数	参観授業科目数
教員	8	29
事務職員	10	21
合計	18	50

平成22年度(11/8(月)～11月19(金))

	参加者数	参観授業科目数
教員	10	25
事務職員	8	10
合計	18	35

平成21年度(12/7(月)～12/18(金))

	参加者数	参観授業科目数
教員	10	16
事務職員	3	4
合計	13	20

※平成21年度～23年度は年間1回(2週間)実施

「学生による授業評価」集計結果出力表(例)【学部用】

科目名: _____

担当教員名: _____

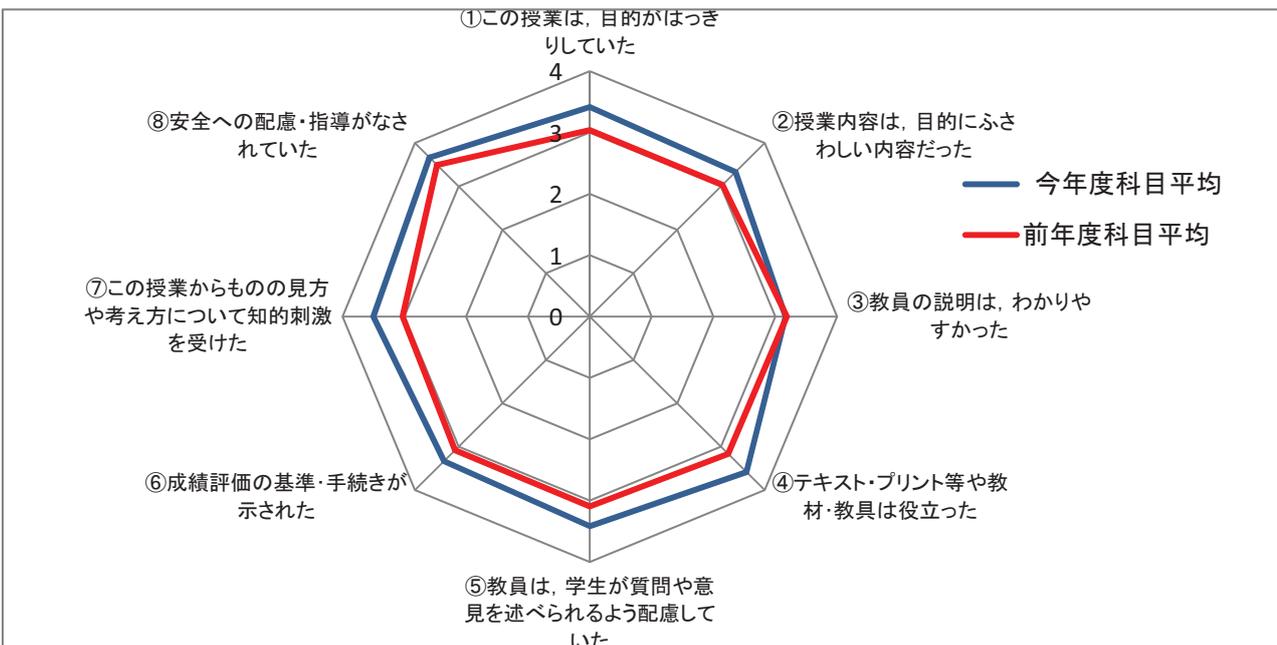
履修者数: 名 _____

回答者数: 名 _____

学年	1年	2年	3年	4年	大学院生	科目等履修生	特別聴講生

	4 そのとおり	3 ほぼそのとおり	2 あまりそうではない	1 そうではない	今年度科目平均	※前年度科目平均
①この授業は、目的がはっきりしていた	5	7	0	0	3.42	3.04
②授業内容は、目的にふさわしい内容だった	4	8	0	0	3.33	3.04
③教員の説明は、わかりやすかった	5	6	0	0	3.17	3.19
④テキスト・プリント等や教材・教具は役立った	7	5	0	0	3.58	3.17
⑤教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた	5	7	0	0	3.42	3.10
⑥成績評価の基準・手続きが示された	4	8	0	0	3.33	3.08
⑦この授業からもの見方や考え方について知的刺激を受けた	6	6	0	0	3.5	3.03
⑧安全への配慮・指導がなされていた	8	4	0	0	3.67	3.49

※平成24年度については表示しない



教員のコメント	
---------	--

「学生による授業評価」集計結果出力表(例)【大学院用】

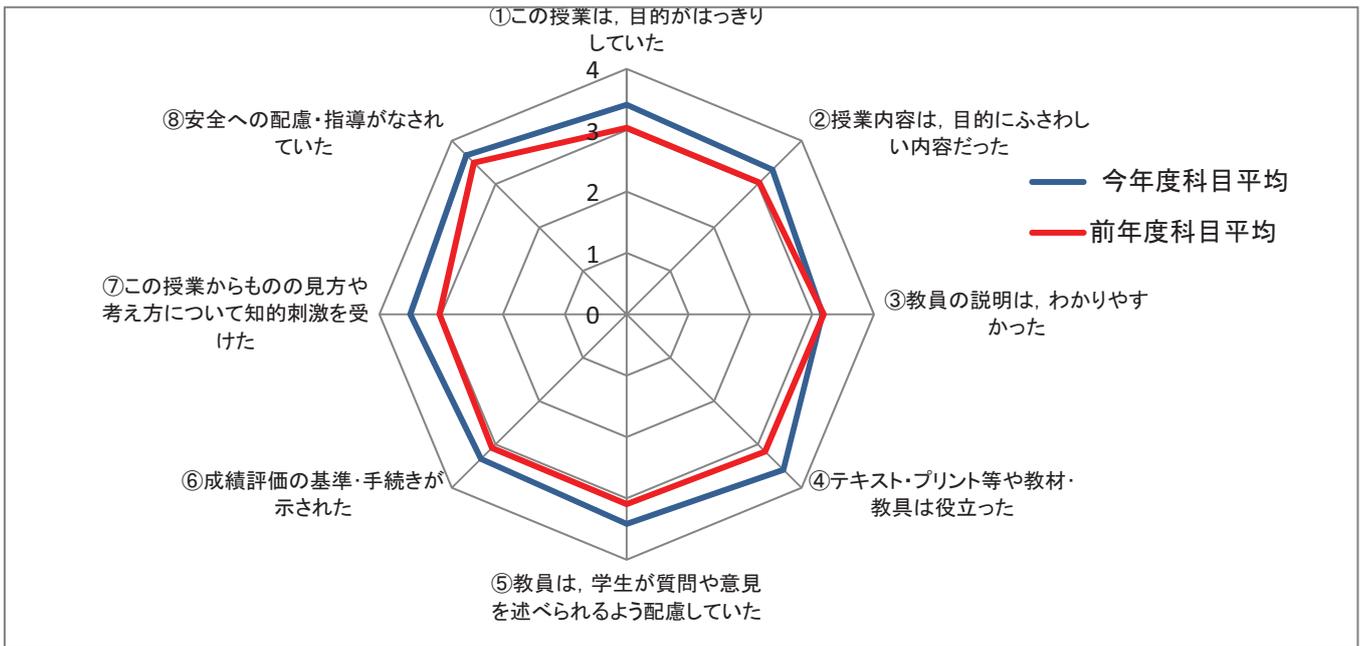
科目名: _____
 担当教員名: _____
 履修者数: 名 _____
 回答者数: 名 _____

学年	M1	M2	科目等 履修生	特別 聴講生

区分	現職	現職 以外

4 そのとおり	3 ほぼそのとおり	2 あまりそうではない	1 そうではない	今年度科目平均	※前年度科目平均
5	7	0	0	3.42	3.04
4	8	0	0	3.33	3.04
5	6	0	0	3.17	3.19
7	5	0	0	3.58	3.17
5	7	0	0	3.42	3.10
4	8	0	0	3.33	3.08
6	6	0	0	3.5	3.03
8	4	0	0	3.67	3.49

※平成24年度については表示しない



教員のコメント	
---------	--

平成25年度前期「学生による授業評価」実施結果

1. 実施時期

7月1日～前期科目終了まで（気象警報発令による休講のため、最終は9/26となった）
（7月1日以前に授業が終了する場合は、終了の1週間前に調査票を配付し、随時実施）

2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が教育支援課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 評価シートの「学年」欄は、学部学生のみ記載すること。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

4. 実施結果（9月末日時点）

対象科目数（A）	435
実施科目数	401
未実施科目数（B）	34
未実施科目割合（(B) ÷ (A)）	7.8%

※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。

平成25年度後期「学生による授業評価」実施結果

1. 実施時期

1月8日～後期科目終了まで

(1月8日以前に授業が終了する場合は、終了の1週間前に調査票を配付し、随時実施)

2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が教育支援課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 評価シートの「学年」欄は、学部学生のみ記載すること。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

4. 実施結果（3月末日時点）

対象科目数（A）	381
実施科目数	348
未実施科目数（B）	33
未実施科目割合（(B) ÷ (A)）	8.6%

※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（26名）
- ・ 履修者がいなかった。
- ・ 通年科目であるが、前期で終了している。
- ・ すでに終了している。

学生・教職員FD活動交流会

－「ベストクラス賞」創設のための検討について－ の実施結果について

《検討の目的》

本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索していくため。

《開催日時・場所》

平成26年3月6日（木） 12:15～14:00 総合研究棟3階 中会議室兼セミナー室

《会議形式》 ランチミーティング

《参加者》

- ・学部学生（1～3年次生） 3名
- ・大学院学生 9名
- ・教員 4名
- ・事務職員 3名

《交流会実施内容》

1. FD活動交流会開催にかかる趣旨説明等について

- ①FDとは
- ②兵庫教育大学におけるFDとは
- ③FD活動の概略説明
- ④FD活動交流会の位置づけ

2. ベストクラス賞創設に関する検討のゴールとタイムスケジュールについて

- ①学生参画という趣旨からして、ベストティーチャーではなく、ベストクラスという概念を、良い授業という視点から議論したいこと
- ②ゴールは、ベストクラスという概念を構築できるかどうかを見極めること
- ③そして、できるとすれば、ベストクラス賞の選定をどのように具体化できるのかということを議論すること。
- ④タイムスケジュールは平成26年度1年間であること。
- ⑤会の開催頻度は、これから議論して決めたいということ。

3. グループでの議論の内容

- ①ベストクラスという概念を構築できそうか
- ②今後のこの会の進め方はどうあるべきか、ということについて、できるだけ論点を絞らずに、また発想が小さくならないように、ブレインストーミングを行った。

4. 議論したことを発表することによる共有

No.	所属	氏名	研究会等名称	日程	主催
1	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	天根 哲治	協同学習(グループ)形式による学部授業の参観とFDの観点からの意見交換ならびに情報収集	2013/5/13(月)	創価大学
2	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	吉水 裕也	関西地区FD連絡協議会第6回総会	2013/5/18(土)	関西地区FD連絡協議会
3	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	山中 一英	関西地区FD連絡協議会第6回総会	2013/5/18(土)	関西地区FD連絡協議会
4	教育支援課	廣田由津子	関西地区FD連絡協議会第6回総会	2013/5/18(土)	関西地区FD連絡協議会
5	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	淀澤 勝治	関西地区FD連絡協議会共催事業(滋賀県立大学) 「大学生への作文法指導」	2013/6/28(金)	滋賀県立大学
6	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	淀澤 勝治	第12回manabaセミナー「ポートフォリオ・LMSの先端事例研究」	2013/7/5(金)	株式会社朝日ネット
7	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	山中 一英	第9回関西大学FDフォーラム「アクティブラーニングの方法、道具、環境」	2013/7/12(金)	関西大学教育開発支援センター
8	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	吉水 裕也	平成25年度大学評価フォーラム「学生からのまなざし・高等教育質保証と学生の役割」	2013/7/22(月)	独立行政法人大学評価・学位授与機構
9	教育内容・方法開発 専攻文化表現系教育 コース	寺尾 裕子	平成25年度大学評価フォーラム「学生からのまなざし・高等教育質保証と学生の役割」	2013/7/22(月)	独立行政法人大学評価・学位授与機構
10	教育支援課	廣田由津子	平成25年度大学評価フォーラム「学生からのまなざし・高等教育質保証と学生の役割」	2013/7/22(月)	独立行政法人大学評価・学位授与機構
11	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	安原 一樹	平成25年度岡山大学教職員研修「桃太郎フォーラムXVI」～アクティブ・ラーニングの実践に向けて～	2013/9/20(金)	岡山大学教育開発センター
12	教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別 コース	吉川 芳則	全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた指導の改善・充実に向けた説明会に出席	2013/10/7(月)	文部科学省・国立教育政策研究所
13	教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別 コース	加藤 久恵	全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた指導の改善・充実に向けた説明会に出席	2013/10/7(月)	文部科学省・国立教育政策研究所
14	人間発達教育専攻 教育コミュニケーション コース	須田 康之	第85回京都大学高等研究開発推進センター公開研究会「深いアクティブ・ラーニングを創発させる学習評価とテクノロジーー Learning Catalyticsを中心にー」	2013/10/10(木)	京都大学高等教育研究開発推進センター
15	教育内容・方法開発専攻 文化表現系教育 コース	寺尾 裕子	第86回京都大学高等研究開発推進センター公開研究会「深いアクティブ・ラーニングを創発させる学習評価とテクノロジーー Learning Catalyticsを中心にー」	2013/10/10(木)	京都大学高等教育研究開発推進センター
16	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	淀澤 勝治	帝京大学教職大学院フォーラム「今、校内研修・授業研究の充実を考える」	2013/10/12(土)	帝京大学
17	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	淀澤 勝治	東京学芸大学「教員養成教育の評価等に関する調査研究」公開研究会ー教員養成機関の自律的な質保証を求めてー	2013/11/17(日)	東京学芸大学教員養成評価プロジェクト
18	学生支援課	前田 憲章	産学協同就業力育成シンポジウム2013「主体性が学生を変える、学生が社会を変える」	2013/11/28(木)	Future Skills Project研究会
19	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発 コース	淀澤 勝治	創価大学 第11回FDフォーラム「アクティブ・ラーニングと大学教育」	2013/12/14(土)	創価大学
20	人間発達教育専攻 学校心理・発達健康 教育コース	小林小夜子	北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター グローバルセミナー2014「大学院教育における文化的変容ートランスファラブル・スキルとアクティブ・ラーニングー	2014/1/24(金)	北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター
21	理事・副学長	福本 謹一	京都大学高等教育研究開発推進センター第86回公開研究会・国際シンポジウム「学生の学びをどう記録し分析するかーMOOCs,アクティブラーニングとLearning Analyticsをめぐってー」	2014/1/26(日)	京都大学高等教育研究開発推進センター
22	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	吉水 裕也	京都大学高等教育研究開発推進センター第87回公開研究会・国際シンポジウム「学生の学びをどう記録し分析するかーMOOCs,アクティブラーニングとLearning Analyticsをめぐってー」	2014/1/26(日)	京都大学高等教育研究開発推進センター